

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年1月5日

【評価実施概要】

事業所番号	4076700196
法人名	医療法人 弘医会
事業所名	グループホーム 弘医荘
所在地 (電話番号)	福岡県朝倉郡筑前町高上962 (電 話) 0946-21-8505

評価機関名	SEO (株)福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F		
訪問調査日	平成 20年 12月 18日	評価確定日	平成 21年 1月 29日

【情報提供票より】(平成 20年 11月 1日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 14年 12月 16日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	10 人	常勤 9 人, 非常勤 2人, 常勤換算 7.7人	

(2)建物概要

建物形態	併設	改築
建物構造	鉄骨 造り	
	4 階建ての 階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,500 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(51000 円)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食 円	昼食 円	円
	夕食 円	おやつ 円	円
	または1日当たり	1500 円	

(4)利用者の概要(平成 20年 11月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	1 名	要介護2	2 名
要介護3	4 名	要介護4	2 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 83 歳	最低 71 歳	最高 88 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	太刀洗病院 朝倉記念病院 ハートスマイル歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

50年前から、地域医療に貢献してこられた現会長の意向で、太刀洗病院に併設された職員寮を改築して建てられたホームである。4階建ての1階部分がグループホームで、元々が職員寮ということもあり、一見グループホームとは分かりにくい造りとなっているが、玄関を入ると家庭的な雰囲気が漂い、ゆっくり落ち着けるリビングでは、ご利用者が庭を眺めたり、家事をお手伝いされる姿が見受けられる。併設の母体病院のバックアップ体制が整っており、医療関係者の訪問も多く、看護部長は毎日のように訪問され、ご利用者の様子やホームの状況把握に努めておられる。玄関から頻回に出て行かれるご利用に對しても、行動制限することなく、その都度、職員が携帯を持って、一緒に散歩するなど、ご利用者主体のケアが行われ、“がまだす表”を作成して、ご利用者ができる家事を、職員全員で支援する姿が印象的なホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
①	前回の評価結果にもとづき、心身の状況変化が生じた場合、再アセスメントを行い担当者会議を開き介護計画を作成した。また、事業所との交流を深め、意見交換などを通して、ケアの質の向上に取り組んできた。職員全員が成年後見制度等の理解を深めるために、研修会に参加したり、パンフレットをホームに備え付けるなどの取り組みも行われた。
②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
③	運営者である理事長は、外部評価の意義を理解し理事会で取り上げ、職員一丸となって評価に取り組まれている。職員に、自己評価票を記入して頂き、管理者が1つにまとめた。ご利用者に対するチームケアの必要性を再認識する機会となり、ご利用者への声かけ時も、ご利用者の目を見て挨拶するなど、改善に向けた取り組みが行われている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
④	地域包括支援センター・福祉課の職員、区長・民生委員・老人クラブ代表・ご家族参加に加え、ご利用者全員出席して会議が行われている。会議の議題は年間計画として出席者にお知らせしており、率直な意見交換が行われている。ご利用者が会議の始まりに挨拶され、職員が交代で司会進行を担当している。出されたご意見を検討し、改善したことを報告したり、会議日に避難訓練を予定し、訓練の様子を見学して頂くなどの取り組みも行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8, 9)
⑤	ご利用者ごとの“弘医荘だより”を作成し、お便りの中に個別の写真も掲載されている。面会時や月末の支払い時に、金銭の収支報告を行うと共に、職員の異動の報告も行われている。ご家族面会時や電話等で相談や苦情をお聞きし、ご家族の立場になって、職員間で検討を行っている。内容によっては、管理者が看護部長に報告し、場合によっては主治医も含めた話し合いが行われている。ご家族より、最近ご利用者が“太ってきた”というご意見をいただき、活動量に合わせたカロリーの見直しが行われ、運営推進会議で結果の報告が行われた。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
⑥	同法人のデイサービスでの行事や近隣施設の文化祭・介護フェスタ等に参加し、地域の方々や交流している。ご利用者が作った陶芸品の展示会が年1回行われ、近隣の方々が大勢見に来て下さっている。同敷地内にある、託児所の子供達との交流や近隣の方からのお花の苗や野菜の差し入れもある。職員による、独居高齢者の訪問ボランティアも行われている。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の祭事に参加したり、陶芸作品展への出展など、地域とのふれあいを深めながら、限りある人生を、自分の思うように、悔いなく過ごしていただけるようにと、前事務長・前管理者・看護部長で作られた理念である。“入居者の方と共に、地域との交流を図り、親睦を深める”という、ケア目標も理念と共に掲示されている。ご利用者が自分の家庭のように、ゆったり楽しく仲間と元気に暮らせるようにという思いが込められている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者が、ご利用者の人間性を尊重し、母体病院や近隣の施設等と連携をはかりながら、安心して生活できる施設にしたいと、職員と話し合いをしている。理念を意識してケアに当たるように日々職員も努力しているが、常にケアが必要なご利用者が数名おられ、業務が思うようにすすまないときなど、焦りの気持ちが言葉に出てしまうことがある。管理者や看護部長がカンファレンスで話し合ったり、個人面談などで職員自身に気づいてもらうような取り組みが行われている。	○	日々の業務の中で、常にケアが必要なご利用者が数名おられ、玄関のセンサー音が鳴るたびに、走って駆けつけるなど職員は努力されている。その中でも、行動制限をしないケアを徹底されているホームの方針を今後も継続されることを期待したい。今後の取組みに期待していきたい。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	同法人のデイサービスでの行事や近隣施設の文化祭・介護フェスタ等に参加し、地域の方々と交流している。ご利用者が作った陶芸品の展示会が年1回行われ、近隣の方々が大勢見に来て下さっている。同敷地内にある、託児所の子供達との交流や近隣の方からのお花の苗や野菜の差し入れもある。職員による、独居高齢者の訪問ボランティアも行われている。	○	ご利用者が高齢となり、以前のように外出することが難しくなっている。意識して外出するよう職員も取り組んでいるが、職員だけの支援には限界を感じておられる。町役場への協力依頼もされていることから、社会資源を活用した取り組みに今後も期待していきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者である理事長は、外部評価の意義を理解し理事会で取り上げ、職員一丸となって評価に取り組まれている。職員に、自己評価票を記入して頂き、管理者が1つにまとめた。ご利用者に対するチームケアの必要性を再認識する機会となり、ご利用者への声かけ時も、ご利用者の目を見て挨拶するなど、改善に向けた取り組みが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター・福祉課の職員、区長・民生委員・老人クラブ代表・ご家族参加に加え、ご利用者全員出席して会議が行われている。会議の議題は年間計画として出席者にお知らせしており、率直な意見交換が行われている。ご利用者が会議の始まりに挨拶され、職員が交代で司会進行を担当している。出されたご意見を検討し、改善したことを報告したり、会議日に避難訓練を予定し、訓練の様子を見学して頂くなどの取り組みも行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は、以前、町立保育園に勤務していた関係から、町役場の職員とは顔馴染みの関係にある。健康福祉課や地域包括支援センターの窓口を訪れ、催し物の案内パンフレットを届けることもある。また、退去者が数名続き“入居予定の方はおられないか”相談したり、生活保護を受けられているご利用者が亡くなられたときに、身寄りの方がおられずに相談するなど、困ったときなど親身に相談に乗っていただいている。	○	事業所が抱える問題について、職員だけでは解決できない問題もあり、町の協力を得て取り組みたいとの希望がある。町役場の担当者と連携した取り組みが行われるよう、今後の更なる取り組みに期待していきたい。
7	10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	ホームに説明用のパンフレットを備え付け、全ご利用者とご家族に説明を行った。地域の方々にも説明できるように、職員も定期的に外部研修会に参加している。地域で行われた介護フェスタで「任意後見制度」について学ぶ機会があり、ご家族への参加呼びかけも行われている。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	担当職員が2ヶ月に1回、ホームでの暮らしぶりや体調のこと、受診結果などが記載された、ご利用者ごとの“弘医荘だより”を作成し、ご家族に郵送したり、面会時にお渡ししたりしている。母体病院の職員にお願いして、おたよりの中に個別の写真も掲載されている。面会時や月末の支払い時に、金銭の収支報告を行うと共に、職員の異動の報告も行われている。運営推進会議が開催される以前は、忘年会を兼ねた家族会にご家族も多数参加されていたが、推進会議に参加されることで、家族会への参加が少なくなってきた。	○	家族会・運営推進会議と、ご家族もお仕事の都合上、参加が難しい状況の中で、都合をつけて参加されている。今後もご家族が参加しやすい曜日や時間を再度確認し、会議内容の検討をするなど、より多くのご家族が参加できるような取り組みに期待していきたい。
9	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族面会時や電話等で相談や苦情をお聞きし、ご家族の立場になって、職員間で検討を行っている。内容によっては、管理者が看護部長に報告し、場合によっては主治医も含めた話し合いが行われている。ご家族より、最近ご利用者が“太ってきた”というご意見をいただき、活動量に合わせたカロリーの見直しが行われ、運営推進会議で結果の報告が行われた。		
10	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、ご利用者にとって馴染みの関係が大切ということを理解し、職員の異動は極力行わない方針であるが、“ご利用者にとってどうか”という視点から、状況によっては職員の異動を行うこともある。職員同士の協力関係もよく、職員の退職は少なく、管理者が職員の休みの希望に応じたり、必要時は、看護部長と共に個人面談を行い悩みを聴取したりしている。定年で退職される職員も、ご利用者への配慮もあり、徐々に出勤日を減らすなどの配慮が行われた。		
5. 人材の育成と支援					
11	19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別・年齢・宗教・出自等を理由に採用対象から外すことはない。事務長、看護部長により面接が行われ、人に優しく、介護が好きな方であれば、短期間の勤務でも受け入れしている。採用後も、職員が得意とすることに力を発揮していただき、資格取得に対しても勤務調整するなどの配慮を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
12	20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日々の業務の中で、常にご利用者の人権を尊重することを管理者が話している。問題があった時には、まずは情報収集を行い、その後、管理者や看護部長が個人面談を行い、職員自身に気づかせるような助言を行っている。	○	職員全員が、ご利用者の人権を尊重したケアが徹底できるよう、今後も指導していきたいと、管理者・看護部長は考えられている。更なる取り組みに期待していきたい。
13	21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個別シートに職員1人ひとりの年間目標をあげていただき、内部研修を行ったり、外部研修に出勤扱いで参加できるよう法人を上げて支援が行われている。職員育成を目的に、年1回は、法人全体で各部署毎に研究発表が行われている。日々の現場では、管理者やリーダーが職員育成のために助言や指導を行っている。		
14	22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者・管理者は同業者との交流・連携づくりに積極的に取り組んでいる。朝倉介護保険事業者協議会に参加し、地区のグループホーム7事業所合同で研修会を行っている。ホームを代表した職員が交代で、2ヶ月に1回、全グループホームを訪問し、意見交換した内容を、レポートにして各職員に見てもらいなど、サービス向上につながる取り組みがされている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に、ご本人・ご家族をホームのお茶会や行事にお誘いしたり、管理者や職員が、ご自宅や病院を訪問し、お話す機会をつくっている。入居に対して不安が感じられた方には、ホームを3～4回訪問していただいたり、ホーム行事のバスハイクにご家族と参加していただき、少しずつ馴染みの関係ができるよう支援している。入居後も、いきなり馴れ馴れしく接するのではなく、職員が話しかけたり、見守りしながら、ご利用者の持つ能力等を観察し、場の雰囲気に馴染んでいただけるような支援が行われている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	ご利用者を介護される一方の立場に置かず、ご利用者の得意な場面で力を発揮して頂いている。若い職員に人生の先輩として、励ましの言葉をかけて頂いたりしている。夜勤時に、“ねらんとじゃろう、大変かね”と労わりの言葉をかけて頂いたり、他のご利用者から強い言葉を言われたときに、間を取り持って下さることもある。ご利用者の記憶が薄れていく現状を涙ながらに訴えられ、一緒に肩寄せ合ってベッで添い寝をすることもあった。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	担当の職員が、ご利用者・ご家族からホームでどのような暮らしを望まれているかを聞き取りしている。ご利用者から聞き取りが困難な場合は、生活歴の中からご利用者の趣味や好きな事を確認したり、他の職員の協力を得て、日頃の生活の中からご利用者の思いを把握するよう取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員が介護計画を作成し、計画作成担当者が確認後、原案をご家族に提示しご意見を頂いている。具体的な介護の手順が細かくプランに明記されている。計画に対して、ご家族から“おまかせします”といわれることが多く、“課題・目標”には問題点が課題として記載されているプランも見受けられる。ご利用者と話し合いができていない方がおられる。	○	介護計画が“ご利用者自身の計画”であるという視点に立つことで、「課題・目標」がご利用者の立場に立った表現になると思われる。ご利用者の持つ力が最大限に発揮できるような計画となるよう、ご利用者・ご家族・必要な関係者からのご意見を頂き、計画に反映できるよう検討されることを期待していきたい。
19	39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	全ご利用者について、月に1回程度は検討が行われている。状況に応じて設定した時期の前でも計画の見直しを行っている。今年の春から、目標達成状況を評価し、確認しながら新たな介護計画の作成に取り組んでいるが、話し合った内容を記録に残せていないものもある。見直しについても、ご家族からの意見は少なく、充分計画に反映できてはいない。	○	計画の達成状況や評価結果をご家族にお知らせすることで、計画の見直しに対しても、ご意見が頂けるものと思われる。ご利用者様がご利用者らしくホームで暮らし続けられるように、ご家族のご意見が貴重なものであることを説明し、理解して頂ける様、今後の取り組みに期待していきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体病院との医療連携により、いつでも電話一本で医師・看護師が駆けつけて頂ける体制にある。入院生活に馴染めないご利用者に対し、職員が看護師に代わり食事介助を行ったり、夜間のみホームで就寝して頂く等の柔軟な対応も行われている。また、外泊の支援やご家族に代わって行きつけの美容院や歯科受診への外出支援も行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者・ご家族の希望で、主治医を選んで頂いている。会長(医師)による往診と共に、母体病院への通院介助も職員が行っている。個別のかかりつけ医については、家族に通院介助を依頼をしている。受診結果については、変化があった場合は、電話で速やかにご家族に報告し、ご家族が通院介助された受診結果についても、報告を受け把握している。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時に、重度化した場合の対応について、ご本人・ご家族の意向を確認している。入居契約時に重度化した場合、可能な限りホームで対応するが、重度化が進み医療的な処置が必要になった場合、ご家族・主治医と相談することを書面にて説明している。母体の病院とは、内線ですべて連絡できる体制にあり、必要時は、すぐに医師が駆けつけてくださっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は、ご利用者のプライバシーに配慮した言葉かけを行っている。数名のご利用者は常にケアが必要で、いつ外に出て行かれるかわからず、玄関にて申し送りを行っている状況である。記録も玄関ですることがあり、書類を広げたまま、外へ出て行かれたご利用者を追いかけることもあり、個人情報の管理ができていないと管理者や看護部長は感じている。また、研修会の帰りに、気になるご利用者の事を話している場面があり、更なる指導をしていきたいと管理者は考えられている。	○	日々の業務に追われ、ご利用者の個人情報の管理が手薄にならないようにするには、どうしたらよいかを職員全員で話し合いされてみてはどうかであろうか。個人情報の漏洩に当たる行為がどういう行為があるのかを検討されると共に、業務の見直しをすることで、防止できることもあるのではないのでしょうか。今後の取り組みに期待していきたい。
24	54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの日課を優先することなく、すべての事に無理をせず、その人のペースにあったケアを行っている。ほとんどのご利用者が自分の希望など言われるが、伝えていただけない場合は、職員がその人の表情やしぐさ等で思いを汲み取り、支援するように心がけている。時間に関係なく外に行きたがられるご利用者に対しても、行動制限することが更に落ち着きをなくされることを把握しているため、何十回外出されても、その都度職員がさりげなく付き添うようにしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週1回の調理の日に、ご利用者の希望を伺い、職員と一緒に材料を切ったり、皮むきのお手伝いをして頂いている。日ごろは、母体病院で作られた食事を、ご利用者と病院に受け取りに行き、ご利用者の体調を見ながら、食器洗いや食器拭きなど行ってもらっている。“がまだす表”に一人一人の役割が書かれており、慣れた手つきで皆さんが手際よく片付けされている。また、菜園で採れた野菜を使って料理したり、バスバイクで外食するなどの取り組みも行われている。		
26	59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日浴槽にお湯を張り、13時から15時半の間で一日おきに入浴して頂いている。仲の良いご利用者同士で一緒に入浴されることもあり、季節に合わせて、ゆず湯や菖蒲湯など楽しんで頂いている。入浴を嫌がられるご利用者には、無理強いせず、時間を置いて声かけしたり、翌日に入って頂くなどの対応もされている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ご利用者が率先して食事の片付けや畑の手入れ・洗濯物たたみなど行っておられる。ご利用者全員が女性ということもあり、家事を手際よくこなされている。好きなテレビを観たり、中庭から花を摘んできてお部屋に飾ったり、歌を歌ったりとご利用者が好きなことを職員が支援している。週1回のボランティアによる陶芸教室も楽しみの一つで、手作りの作品が多数ホームに飾られている。年1回の展示会も行われ、ご利用者がおしゃれをして楽しそうに展示会場に行かれた写真も掲載されている。		
28	63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	数名のご利用者は、毎日頻回に外出されており、ご本人が納得するまで職員見守りの中、散歩を楽しんでおられる。他のご利用者も、天気の良い日は仲良し3人組みでホーム周辺の散歩コースを散歩されたり、家族との思い出の場所である喫茶店に出かけたりしている。以前に比べ、外出回数は少なくなってきたが、毎月のバスハイクの行事も、ご利用者の楽しみの一つとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜8時から朝8時前までは、防犯上施錠しているが、日中は鍵をかけないケアに取り組んでいる。玄関にセンサーが設置されているため、ご利用者が玄関を出られたら職員が駆けつけたり、お一人の方は、夕方の時間になると落ち着かれなくなることを職員は把握しているため、見守りを強化するなどの対応がとられている。		
30	73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回は、法人全体で避難訓練が行われ、年1回は、ホーム独自で昼夜を想定した訓練が行われている。運営推進会議でテーマとして取り上げ、消防署の協力を得て実際の避難訓練の状況を会議参加者に見学して頂き、災害時の協力依頼も話し合われた。母体病院において、災害に備えて3日分の食料や水の確保がされている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体病院の管理栄養士が作成した献立に基づいて、食事が提供されている。定期的な体重測定や血液検査の結果に基づいた医師からの助言も頂いている。1500カロリーの食事が提供され、中庭で採れた野菜などを調理し、一品加えるなどしていたが、“最近太ってきた”というご家族からのご意見から、行動範囲や活動量の見直しがされ、個別の活動量に合わせたカロリー調整が行われ、その分病院の食事より品数を増やすという取り組みに変更された。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
32	83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの外観に比べ、ホーム内の雰囲気は明るく、リビングの片側には、ご利用者全員が座れるほどのゆっくりくつろげるソファが置かれ、庭の畑やパール柑の木を眺めて過ごされている。家庭的な雰囲気を感じて頂く為に、花を飾ったり、手作りの陶芸品を置くなどの配慮がされている。テレビの音量調整にも配慮されているが、ご利用者も含め活気があるせいか、職員の声にも活気を感じられ、多少大きいように感じられる。	○	ご利用者の中には、玄関のセンサー音が頻回に鳴ることが不快に感じられる方もおられるという。職員が忙しそうにしていると、落ち着きをなくされるご利用者もおられることから、どういう場面や時間帯、どういった声かけに対して落ち着きをなくされるのか、分析してみられてはいかがであろうか。
33	85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者・ご家族に、ご自宅で使用されていた家具や使い慣れた物を持ってきて頂く様説明している。仏壇・ダンス・椅子・テレビなど持ち込んで頂いているが、持ち込みの少ないご利用者の居室には、ご本人が作った陶芸品や季節の花等を飾り、居心地よく過ごして頂いている。		